

Hib ワクチン接種をご希望の方へ

～ 予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください ～

1.乳幼児の細菌性髄膜炎とHib(インフルエンザ菌 b 型)

- ①体の中で最も大切な部分ともいえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外(ウイルスなど)が原因の「無菌性髄膜炎」がありますが、治療後の経過が悪く後遺症が残るなどのため特に問題となるのが「細菌性髄膜炎」です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の病気の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。
- ②乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、略して Hib(ヒブ)と呼ばれています。Hibは冬に流行するインフルエンザ(流行性感冒)の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。また、他の多くの細菌やウイルスとは異なり、Hibは乳幼児に感染しても抗体(免疫)ができず、繰り返し感染することがあります。
- ③Hibによる細菌性髄膜炎(Hib髄膜炎)は、5歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後3ヵ月から2歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。日本の年間患者数は少なくとも600人と報告されており、5歳になるまでに2000人に1人の乳幼児がHib髄膜炎にかかっていることとなります。
- ④Hib髄膜炎にかかると1ヶ月程度の入院と抗生物質による治療が必要となりますが、治療を受けても約5%(年間約30人)の乳幼児が死亡し、約25%(年間約150人)に発育障害(知能障害など)や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。さらに最近では抗生物質の効かない菌(耐性菌)も増えてきており、治療が困難になってきています。
- ⑤その他にもHibは、肺炎、喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身感染症を引き起こします。

2.Hibによる感染症を予防するHibワクチン

- ①Hibワクチンの接種は、任意で受けたい方だけが自費で受けることになっています。
- ②接種年齢は、2ヶ月齢以上になれば受けられます。望ましい接種スケジュールは、初回免疫として生後2ヵ月から7ヵ月になるまでに接種を開始し、4~8週間間隔で3回、追加免疫として3回目の接種から約1年後に1回の計4回接種します。
- ③Hibワクチンは、4回の接種を受けた人のほぼ100%に抗体(免疫)ができ、Hib感染症に対する高い予防効果が認められています。
- ④Hibワクチンの接種後に、他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)です。また発熱が接種された人の数%におこります。
重い副反応として、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。(1)ショックアナフィラキシー様症状(じんましん・呼吸困難など)、(2)けいれん(熱性けいれん含む)、(3)血小板減少性紫

斑病。

- ⑤このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国产ウシの血液および心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界 100 カ国以上で使用されており、発売開始からの 14 年間に約 1 億 5000 万回接種されていますが、このワクチンの接種が原因で TSE(伝達性海綿状脳症)にかかったという報告は 1 例もありません。したがって、理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人が TSE にかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

3.次の方は接種を受けないでください

- ①明らかに発熱している方(通常は 37.5℃を超える場合)
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー(通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

4.次の方は接種前に医師にご相談ください

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ②過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ①このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方

5.接種後は以下の点に注意してください

- ①接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ①接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6 日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑤接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

アクトヒブの接種スケジュール

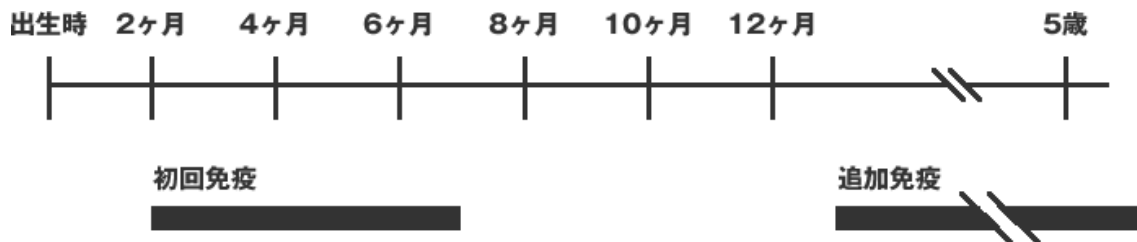
標準的な用法・容量

接種開始年齢 2ヶ月齢以上7ヶ月齢未満

用法・用量 本剤を添付溶剤0.5mLで溶解し、その全量を1回分とします。

初回免疫：通常、3回、いずれも4～8週間の間隔で皮下に注射します。ただし、医師が必要と認めた場合には3週間の間隔で接種することができます。

追加免疫：通常、初回免疫後おおむね1年の間隔をおいて、1回皮下に注射します。



上記接種にもれた場合

○接種開始年齢が7ヶ月齢以上、12ヶ月齢未満の場合

初回免疫：通常、2回、4～8週間の間隔で皮下に注射します。ただし、医師が必要と認めた場合には3週間の間隔で接種することができます。

追加免疫：通常、初回免疫後おおむね1年の間隔をおいて、1回皮下に注射します。

○接種開始年齢が1歳以上5歳未満の場合

通常、1回皮下に注射します。

他のワクチン製剤との接種間隔

生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔をおいて本剤を接種してください。ただし、医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができます(なお、本剤を他のワクチンと混合して接種しないでください)。

接種の一時的な見合せのため、接種間隔が開いてしまった場合

接種の間隔が、予定より多少開いたとしても、ワクチン接種を受けた後の免疫への効果には問題がないとされています。

病気から身体を守る免疫をつけるためには、間隔が多少ずれたとしても、なるべく早く接種を受けましょう。

予約再開日

平成 23 年 4 月 26 日（火）以降、毎週火・木曜日 13:00～16:30 の時間帯で、電話にて予約の受付を致します。

接種再開日

平成 23 年 5 月 11 日（水）以降、毎週水曜日随時接種

注意 1

対象年齢と接種回数を予約される前に再度ご確認ください。

注意 2

DPT との同時接種を希望される場合は、予約時にお申し出下さい。

助成対象者

生後 2 ヶ月～5 歳未満の茨木市民

接種費用

助成対象者 ￥2,000（税込） / 回

助成対象外 ￥7,350（税込） / 回

予約受付電話番号：072-635-5831